

烏山地域オウム真理教対策住民協議会が催す

リサイクル

新品
いっぱい

バザー

4月11日(土) 午前10時

烏山区民センター広場
(雨天の場合は3階集会室で行います)

**8年間活動を続けてきた
住民協議会にご協力
をお願いします。**

物品提供をお願いします

オウム対策住民協議会

烏山地域オウム
真理教(現アレフ)
対策住民協議会

今年も行います！オウム対策住民協議会主催で行うバザーも3回目です。

オウム解散・解体をめざして続けてきた活動は9年目になりました。

年2回の抗議デモと学習会、毎月の協議会ニュース発行、オウム施設の監視行動、観察処分期間更新と団体規制法存続の署名活動など、多くの皆さんのご協力で8年間続けて来る事が出来ました。これからも続けなければならない活動の資金を得るため、今年もリサイクルバザーを行います。

皆さんのバザーへの寄付品を、お待ちしております。

1) 物品受付日時と場所

- 3月19日(木) 午前10時～12時 烏山総合支所 第一会議室
- 3月27日(金) 午後5時～8時 烏山区民センター 集会室
- 4月3日(金) 午前10時～12時 烏山総合支所 第一会議室
- 4月10日(金) 午前10時～12時 烏山区民センター 集会室

●お問い合わせ：03(3326)6134

2) 受付物品

- 日用品(石けん、タオル、シーツ、陶器類、乾物類など)
 - 衣料品(子供服、婦人服など新品のもの、あるいはクリーニング済みのもの)
 - 雑貨(アクセサリ、おもちゃ、ぬいぐるみ、ハンドバッグ、時計など)
- ※品物によってはお受け出来ないものもあります。

「地下鉄サリン事件被害者の会代表世話人」というカード、何度放り出したくなったことか！多少の差はあれ、怒りを共有した被害者や遺族が集まったものの、「一枚岩」じゃないときの苛立ちは一人で収めようもなかった。でも、被害者や遺族も、サリン中毒の後遺症の苦

しみみ泣けてきたのは、14年も過ぎたここ何年かのこと。信じてもらえないだろうけど。まあ、それだけ走り回って、殺された主人のことを偲ぶ時間がなかったことだと思ふ。とにかく走らざるを得なかった。それはそれで良かったんだらうけど、これから生きられる年月を意識するようになると、たまたまなく虚しさを感じて、良かったのかどうか。そういう評価は、相手によって違ってくるのだらう。

まったく、事件が起きてからの何日かはまるで操り人形のようなだった。喪服が、通夜からの一連の行事を推し進め、仕来りって言うか、慣例って言うか、それなりの根拠があるんだらうけど、上手くできていたと思ふ。涙は、こめかみに付いているボタンを押して出し、背中のボタンを押してお辞儀していたようなものだった。

一九九五年3月20日、オウム真理教は地下鉄霞ヶ関周辺数ヶ所で、猛毒サリンを散布するという、連続多発テロ行為をおこなった。12名の貴重な生命がうばわれ、五五〇〇名以上の方が負傷する大惨事だった。忘れてはいけない、地下鉄サリン事件15年目を迎えて、遺族「地下鉄サリン被害者の会」代表 高橋シズエさんに寄稿していただいた。

地下鉄サリン事件から15年目を迎えて

「もう元気になった?」…そんなものじゃない!

地下鉄サリン事件遺族 高橋シズエ

「また、あの人が」とテレビの向こうから聞こえるような気もしたけど、当の本人は主婦の非日常を右往左往、必死だった。民事提訴、被告人とのあれやこれや、記者会見も個別取材も受けて被害者救済を訴えて、と。中でも応えたのは、政府の壁、行政の壁だった。

周囲の人たちはどう思っていたのだろう。「また、あの人が」とテレビの向こうから聞こえるような気もしたけど、当の本人は主婦の非日常を右往左往、必死だった。民事提訴、被告人とのあれやこれや、記者会見も個別取材も受けて被害者救済を訴えて、と。中でも応えたのは、政府の壁、行政の壁だった。

しみ、仕事や生活の不安、家族や友人との摩擦、言うに言われぬオウムへの恐怖などは、果てしない悩みで苛立っていたのは間違いないこと。それを考えると、手前味噌になるけれど、脱落者もなくよくここまでやってこられたと思う。

なんとおこがましい！そこには絶対不可欠の弁護士さんたちがいたから成し得たこと。坂本弁護士一家殺害事件が弁護士活動妨害事件でもあったことから、オウムに対峙する同志でもあったと思うが、被害者や遺族の擁護はむしろ、会の運営などの心強い後ろ盾になってもらった。弁護士さんたちの執念にも似た熱意は、三つの特別立法を成立させ、被害者救済を実現させた。素人の私に何が出来るわけでもなかったが、その熱波に影響されて走り始めていた。

(裏面へ続く)

(表面の続き)

どうしてこんなにお願いしても、結局たどりつく恨みは地下鉄サリン事件であり、オウムでしかない。しかし、「世の中の道理は通るものだ」と思ったのは、たくさんの人たちの応援があることを知ったとき。

「ここにいて」と、本のタイトルにしたけど、この言葉を最初に私が知ったのは、アメリカ同時多発テロ事件の遺族が私の娘にしたという話を聞いたからだ。代表世話人になって活動している母を自分が何も手伝えないうもどかしさを吐露した娘に、「ここにいて、私が大事」と言ったアメリカの遺族の言葉だった。そして、私は応援してくれる人たちにも「ここにいてよお、大丈夫、ひとりじゃないからね」という声を感じることができた。

仏千人、神千人。悲惨なできごとが出発点ではあったけど、遭された家族は壊れなかった。さまざまな方面からのバックアップに支えられた。こんな私にも耳を傾けてくれる人たちがいた。そして、正しいことが成果につながることも体験した。

そう、外見には元気になった。周りの人にも心配させたくないから、元気になっている。でもやっぱり、十四年も経っているのに主人が座っていた「この椅子は空いたまま」。

監視小屋便り

オウム施設の監視活動は39の団体（町会・自治会、小・中学校PTA、青少年地区委員会、商店会）の皆さんの協力を得て、年間のローテーションを組み、教団の活動を監視し日誌に記録しています。

<日誌より抜粋>

●午前中はGSハイム・サンサンマンションへの出入りが多い様に思いました。監視小屋に到着時より、荷物を運び出す作業を午後までしていました。横浜にて本日(9/27)集会があると情報がありました。

●上祐が女性と一緒に出てくる（青いTシャツで、女性とおそろい）。白ワゴン車に乗って行った。運転者が迎えに来た時は、白のストライプのシャツだったが、出て行くときは同じ青のTシャツだった。

●白い車に乗って上祐らしき男と、長髪30代女性、20代男性が来て、GSハイム1階右奥の部屋に入る。荷物は旅行カバン4個、プラスチックボックス2個、カメラ用三脚1脚を運び込んだ。

●複数の刑事さんらしき人たちが外にいた。GSハイムの2階を見てまわり、部屋から女性を呼び出したりしていた。刑事さんらしき人たちが、だんだん増えて10人位になっている。皆、外で待機。(10/30)

●集まりがあるのかGSハイムの右はしの部屋を何人かの人が出入りしている。10人位の信者が出てきて建物内で移動。

●年配の信者が見られる様になり、年月が経った事を実感し、いつまでこの様な状態が続くのか不安で一杯です。早急に脱会し解散してほしいと強く願います。

日誌からは信者達の日常の動きが詳細に読み取れます。特に昨年秋からは信者の引越しの様子が何日も記載され、転出・転入が多い様です。「アレフ」の本部が烏山から足立区に移転したとの情報もきこえてきます。また「ひかりの輪」は、昨年暮れから正月にかけて多数の信者を集め、烏山でセミナーを開きました。住民協議会は今後も厳しい目で、監視小屋での活動を続けますので、皆さんの一層のご協力御支援よろしく願います。

「観察処分」期間更新への思い

1月23日、3回目の「観察処分」の期間更新が、公安審査委員会より発表されました。これにより「観察処分」の施行は、2000年1月より今年で10年目にはいります。地下鉄サリン事件をはじめ、数々の凶悪な事件を繰り返した、危険な団体オウム真理教を、国の監視下に置く目的で、1999年12月「無差別大量殺人行為を行った団体の規制に関する法律」(団体規制法)が施行されました。「観察処分」はその「団体規制法」の第2章の第5条に存在します。

さて、「期間更新」の内容ですが、公安審査委員会が発表した政府発行「官報」に、今回の期間更新の理由として、元教祖、麻原彰晃による「教団の活動への影響力が存在」を挙げ、その根拠を数項目について記しています。内容的には前回と大きな違いはありませんが、「組織維持のため

に、組織を二つに分けるべきだ」との麻原の言動を忠実に実行し、「観察処分」を免れるために誕生したのが「ひかりの輪」だとの指摘は変化した個所です。麻原との決別を主張して設立した「ひかりの輪」が、実は麻原の影響が大きかったとする文章には驚かされました。「ひかりの輪」設立で麻原の存在を認める一方で、いささか矛盾する文章が、官報の最後に書かれています。「今後のひかりの輪の活動が、サリン事件等に対する真の反省に基づき実施されるものであると認めることができるか、また、被害者や周辺住民等の理解を得られるものであると認めることができるかを注視していきたい」この内容は過去2回と比べると、かなり踏み込んだものです。公安審査委員会の苦心の思いが感じとれる一文として受け取って良いものか、悩みが深まるばかりです。

住民協議会活動報告

2月11日(水) からすやま新年子どもまつりで募金活動
2月15日(日) 粕谷区民センターまつりで募金活動
2月23日(月) 実行委員会

2月23日(月) 協議会ニュース83号初校正
3月2日(月) 協議会ニュース83号再校正
3月9日(月) 協議会ニュース83号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。